

活動テーマ

楽山人塾

—資源を活用するための学生と名栗住民との協働—

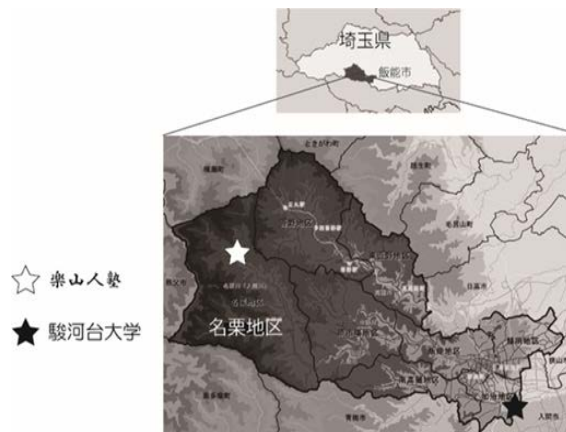
飯能市上名栗地区 駿河台大学

1 活動目的

名栗地区に活動拠点「楽山人塾」＝駿大版ダッシュ村を設け、中山間地域の課題とその解決策、そして地域活性化を考えるとともに、地元ニーズに対応しうる活動を行い、ひいては地域経済振興と雇用の創出を目指すことを目的とする。

2 活動地域の現状

飯能市名栗地区は森林率が90%を超える自然豊かな地区である一方で、少子高齢化の進行と若年層の流出により、限界集落化に直面しており、地域活力の低下が危惧されている地区である。



図：楽山人塾と本学の位置関係

3 活動内容

平成29年度の活動内容は以下の通り。

- ・拠点づくりのための現場での活動・古民家改修・放棄農地活用・森林整備、ツリーハウスづくり・地域イベントの補助、活動紹介ブースの出店・古民家を使ったエコツアーの実施・リスクマネジメントや救急救命講座の受講・持続可能にするためのフレームワークづくり

4 成果

今年度の活動日数は2018年2月末日までに28回、活動人数はのべ448名となった。これに加え、夏期休暇中には3年次生が各自で地域調査を実践しており、個別での交流の機会が得られた。また、10月に学園祭での展示を行い、同窓会会長賞を受賞したほか、12月には全国エコツーリズム学生シンポジウムでポスター報告を行った。今年も新聞やテレビ、雑誌の取材が複数回あった。

放棄農地の活用では、昨年レモンを植えたがシカに食われ、現在はほぼ壊滅状態。今年度はジャガイモを植えたがイノシシに食われ、何も残らなかった。柵はほぼ意味を持たなかった。ツリーハウスづくりについては、設置作業を開始した。森林整備は冬場に行く予定だったが、荒天のため手付かず。地域イベントの補助、活動紹介ブースの出店は例年通り実施し、今年は地元店舗のポスター展を行い好評を得た。

古民家を活用したエコツアーの実施は本活動2年目から始めたが、今年度は法律の問題（旅行業法に抵触するおそれ）ですべて中止した。後日、現在の集客の手法では問題がないことがわかり、来年度は実施したいと考えている。リスクマネジメントとして、エコツアー実施に先立ち、2017年5月30日に全員が上級救命講習会に参加した。今年度は、本活動に参加の学生2名が卒業論文で中山間ふるさと支援隊活動について取り上げた。

5 課題

課題は特にないが、4年間の活動を経て、最初につながる人物が誰であるかにその後の活動が大きく左右されるということが分かった。キーパーソンを見極める力が重要。

6 次年度以降の計画

2014年より取り組んできた本活動は今年度をもって、終了する。上名栗を拠点に、多様な方との連携のなかで、地元のニーズも少しずつではあるが理解し始めたが、まだまだ力及ばず、というのが現状である。これまでの活動を踏まえ、来年度からは、下名栗で取り組みを進めていきたいと考えている。詳細については、現在調整中であるが、地域資源を活用したまちづくりに資する活動を目指していく予定である。

